

○川又照雄副議長 議長を交代いたします。

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番赤堀平二郎議員の発言を許します。

〔3番 赤堀平二郎議員 登壇〕

○3番(赤堀平二郎議員) 民主党の赤堀平二郎でございます。私は最初に、少子・高齢化対策、特に高齢者の皆さんの問題にかかわる点につきまして一般質問をさせていただきます。

今、全国的に少子・高齢化の波が進み、当然ながら当市におきましても例外ではございません。少子化対策につきましては、当市は子育てしやすい町を目指して、新婚家庭への家賃補助制度や第3子以降の保育料金の無償化等々、さまざまな施策を行う中で成果を上げてまいったと考えております。一方、高齢化に関するさまざまな問題もまた、当市にとって大きな課題であることは間違いありません。私自身、昭和24年生まれの団塊の世代の最後の年代に属する人間でございますけれども、私たちこの年代がよわいを重ねてまいりますと、さらに高齢化が進んでいくことは明明白白であります。そこで今回、高齢化に関する3つの問題点につきまして質問をさせていただきます。

まず、第一にひとり暮らしの高齢者の見守り体制についてであります。そこでお伺いいたします。現在、当市のひとり暮らし高齢者の世帯合計数、そして地区別の数は幾つなのかお尋ねいたします。また、新聞報道によりますと、日本郵政が試験的にひとり暮らしの高齢者の見守りサービスを開始するとのことでございます。当市におきまして、民間業者との連携、提携の実情をお聞かせ願いたいと思います。

次に、先ほど同僚議員の発言の中でもありました買い物難民についても触れさせていただきます。特に日常的移動手段を持たない、近くに商店もしくは商業施設のない高齢者についての対策でございます。同僚議員も触れました新聞報道によりますと、日立市は委託した民間事業者2社による移動スーパーの循環販売の実証実験を始めたとのことでありますけれども、当市においてはどのような対策が行われているのかお尋ね申し上げます。また、民間事業者との連携の現状についてもお願いいたします。

3番目の問題といたしましては、これも前者のひとり暮らしの高齢者、買い物難民の高齢者となつがる問題であります。交通弱者の問題でございます。現在運行されている市民バスの利用者の年次別の利用者数、ルートと範囲についてお聞かせいただきたいと思います。また、他市で運行されています玄関から玄関へというオンデマンドタクシーの運行実態と行政のかかわりについても教えていただきたいと思います。

続きまして、道路環境の整備でございます。

周知のとおり、現在、国道349久慈川にかかる幸久橋が橋脚等の損傷により通行どめとなっております。来年の2月半ばまで検査を行い、その結果をもって通行の可否を決める、今後の方針を決めるということでもありますけれども、この間、主にこの近辺で特に平日、朝夕に起きている渋滞対策についてお伺いいたします。

橋梁につきましてはもう一点、現在、谷河原の踏切を越え青木自動車工場さんの脇を通過して3

49バイパスを横切り里川に向かう道路、その里川にかかる八幡橋の件であります。ふだんから結構な交通量がありますけれども、幸久橋の通行どめの影響もあり通行量が増えているように思われます。この八幡橋は木橋であり傷みも激しく、増水によって幾度も流出した過去もございます。また、この夏その周辺の雑草により見通しが悪く、建設課にお願いして除草していただいた経緯がございます。そこで伺いたしますが、この木橋をより強固な構造の橋にかけかえるお考えはないか。また、周辺整備についてのお考えをお聞きいたします。

次に、これもまた幸久橋の通行どめによって発生した問題でございますが、渋滞時間を少しでも短縮しようとするドライバーが、狭い裏道や生活道路の中に入ってまいりまして、そこを通る通学の児童生徒が危険に遭うリスクが増えております。通学路の安全確保にどのように取り組んでおられるか伺いたします。

この問題の最後に、秋口の台風による川の増水により、下河合近辺の久慈川沿いのサイクリングロードに上流から流されてきたごみが堆積したまま放置されております。ところどころでサイクリングロードが寸断されています。休日など親子連れがサイクリングをしたりウォーキングをする姿をよく見かけましたが、今では通行不能であり、それがごみの不法投棄を誘発、助長する原因ともなりかねません。早急な対応が求められますがいかがでしょうか。

続きまして、安全・安心のまちづくりについて伺いたします。

災害対策の備えをお伺いたします。過日日本列島に接近し、伊豆大島を初めとして人的被害を含めた大災害となった台風26号、当市にも少なからず影響を及ぼしました。伊豆大島では、台風接近の折、残念ながら首長、副首長とも不在であったと聞いております。避難勧告、避難指示も出されていなかったという報道もございます。そこで伺いたします。当市ではどの時点で災害対策本部を設置するのか。また、どのように避難勧告、避難指示を出すかお聞かせ願いたいと思います。

続いて、防災無線の新設についてお尋ねいたします。現在、各家庭には防災ラジオが戸別配布されておりますけれども、屋外においては当然のことながら有効ではございません。防災無線空白地域においては何かと不便を来しております。そこで伺いたしますが、防災無線の新設調査の計画はないか、また、新設する場合の1基当たりの費用についても伺いたします。

以上で私の1回目の質問を終了いたします。よろしくご答弁のほどお願い申し上げます。

○川又照雄副議長 答弁を求めます。保健福祉部長。

[埴信夫保健福祉部長 登壇]

○埴信夫保健福祉部長 高齢化対策について、ひとり暮らし高齢者の見守り体制の現状、買い物難民の現状と今後の対策についてお答えをいたします。

まず、ひとり暮らし高齢者の数でございますが、平成25年4月1日現在で1,697人となっております。内訳といたしましては、常陸太田地区が963人、金砂郷地区が300人、水府地区が269人、里美地区が165人となっております。

次に、当市におけるひとり暮らし高齢者の見守り体制でございますが、援護を必要とする高齢者一人ひとりを見守る地域ケアチームによる見守り、また、現在進めております災害時要援護登

録者に対しての近隣住民による日ごろの見守り，それから配食サービス，緊急通報装置設置等の福祉サービス，これらによる見守り体制をとっているところでございます。

見守り体制の民間事業者との連携につきましては，日本郵便株式会社常陸太田郵便局，日立郵便局，市内の新聞販売店，牛乳販売店，ヤクルト販売店，それから，生活協同組合など14の事業者と高齢者等の見守りに関する協定の締結をしております。これは，販売員などが高齢者住宅を訪れた際，何か異常を発見した場合には，市や消防署に対し通報をしていただくものでございます。

次に，日常的に移動手段を持たず，近くに商店などがいない地域の高齢者対策についてでございますが，移動スーパーの状況と民間事業者との連携につきましては，先般，日立市における移動スーパーの実証実験について新聞報道がございましたが，当市におきましては既に常陸太田地区北部に1業者，金砂郷地区に4業者，水府地区に3業者，里美地区に1業者が定期的に食料品などの移動販売を行っている状況でございます。

また，市内の商店による宅配買い物代行サービス事業を初め，JA茨城みずほによる宅配，市内のスーパーにおいて常陸太田地区南部，金砂郷地区南部を対象として食料品の宅配サービスが行われております。また，生活協同組合が行っております食料品などの宅配につきましては，市内の約3割となる6,559世帯が利用しているという状況でございます。

今後も高齢者等の買い物対策につきましては，民間事業者との連携の可能性を模索しながら検討を進めてまいりたいと考えております。

○川又照雄副議長 総務部長兼政策企画部長。

[佐藤啓総務部長兼政策企画部長 登壇]

○佐藤啓総務部長兼政策企画部長 交通弱者の現状と今後の対策についてのご質問にお答えいたします。

初めに，市民バスの年次別の利用者数，ルート，範囲等についてでございますけれども，市民バスは基幹交通である路線バスの空白地域を埋める補完交通として，現在市内に11コース，Aコースが西河内方面，Bコースが大門方面，Cコースが幸久・松栄・佐竹方面，Dコースが真弓・高貴方面，Eコースが大森・岡田方面，Fコースが堅磐・新沼・西バイパス方面，Gコースが金砂・花房方面，H-1コースが水府高倉方面，H-2コースが水府東染方面，Iコースが里美方面，Jコースが赤土・棚谷方面において，全コースとも1回当たり200円で，それぞれ週に1日から2日，2往復または3往復運行している状況でございます。

年間の利用者数ですが，現在の運行コースとなった平成19年度からの状況で申し上げますと，平成19年度が5万6,516人，平成20年度が4万3,751人，平成21年度が4万2,676人，平成22年度3万9,250人，23年度3万5,872人，24年度3万5,241人，今年度は上半期で1万7,542人と減少傾向を示しております。

続きまして，オンデマンドタクシーの運行実態と行政とのかかわりについてのご質問にお答えいたします。デマンド型交通につきましては，商工会やNPO法人により過疎地有償運送が行われている里美地区を除く3地区において，地区内の区域及び各地区と常陸太田市街地を結ぶ区間

において、市が常陸太田市乗り合いタクシー協会に委託する形で乗り合いタクシーが運行されており、

運行内容につきましては、利用料金は1回300円でございます。常陸太田地区が毎週火曜日、金砂郷地区が毎週水曜日、水府地区が毎週金曜日の午前8時半から午後4時までの時間帯において、前日までの予約に応じて1日6便の運行が可能となっている状況です。

年間の利用者数は、平成19年度が578人、20年度3,047人、21年度5,383人、22年度6,632人、23年度7,429人、24年度7,734人と、25年度の上半期では4,082人と、こちらは増加傾向でございます。

なお、市民バスや乗り合いタクシーについては、民間事業者による路線バスの運行系統やダイヤの廃止等が進む中で、移動手段を持たないお年寄りなどの交通弱者と言われる皆様の足としての役割を担っておりますので、今後も本市の地域公共交通計画の中に明確に位置づけ、利便性や利用実態に配慮した見直しを行うなど、利用環境の改善に努めてまいりたいと考えております。

次に、安全・安心なまちづくりについてのご質問にお答えいたします。

災害対策についてのご質問ですけれども、1点目の災害対策本部設置と避難勧告等の判断基準につきましては、市の地域防災計画において、風水害・震災・原子力などの災害の種類やその程度に応じて基準を設定しております。

今回の台風など風水害における災害対策本部等の設置基準でございますけれども、その程度によりレベルを4段階に分け、1つ目として、大雨・洪水警報等が発表され、総務部長が必要と認めたときなどの情報連絡会議。2つ目として、大雨・洪水・暴風等の気象警報が発表され、災害の発生が予想される場合など、副市長が必要と認めたときの災害警戒本部。3つ目として、市内で大規模な浸水や災害が発生した場合で、市長が必要と認めたときの災害対策本部緊急体制。4つ目として、大規模な災害が発生し、緊急体制で対処できないときの災害対策本部非常体制となっております。それぞれのレベルで職員の配備規模を定めているところでございます。

また、避難情報の発令基準でございますけれども、1つ目として避難準備情報、2つ目として避難勧告、そして避難指示の3段階に区分しまして、河川の水位の状況や内水による住宅への浸水被害の状況などを目安に発令することとしております。

9月の台風18号、10月の26、27、28号への対応としましては、台風が接近する前の段階で災害警戒本部を設置し、全庁において連絡体制、被害対応などの確認を行い、総務課を中心に情報収集を行うとともに、建設部、各支所及び関係部署において警戒本部を解散するまでの間、24時間体制で被害等への対応をしてきたところでございます。

災害への対応につきましては、災害の種類や程度などによりそれぞれ異なることから、基準を目安としながら、その状況に応じて適切に対応してまいりたいと考えております。

2点目の防災行政無線の新設についてのご質問ですけれども、現時点においてこれらの調査の計画は予定していない状況でございます。これまで防災行政無線の屋外子局が聞こえづらいとの町会長など地域からの要望等に対しましては、その都度現地確認を行い、拡声器の調整などにより対応しております。また、屋外子局につきましては、基本的に住宅が集まっております集落に

設置調整を行っておりますが、これらの調整で対応できない場合は、住宅の状況などを踏まえながら対応について検討してまいりたいと考えております。

なお、屋外子局の1基当たりの新設費用につきましては、約350万円となっております。以上です。

○川又照雄副議長 建設部長。

[鈴木典夫建設部長 登壇]

○鈴木典夫建設部長 まず初めに、このたび10月17日から幸久橋の全面通行どめが続いており、利用されている多くの市民の方に大変なご不便をおかけしていることを深くおわびいたします。

現在、県が実施しております幸久橋の安全性の確認につきましては、幸久橋利用者の安全・安心を最優先に考え、慎重かつ迅速に進めるようお願いするとともに、その結果による幸久地区周辺の道路ネットワークの再考には、地元常陸太田市の意向も十分に反映され、整備計画を定め、対策工事の早期着手をあわせて国・県に要望してまいりたいと考えております。

それでは、答弁させていただきます。

道路環境の整備について、橋梁等に損傷が見つかり通行どめとなっている幸久橋について、通行どめによる渋滞への対策についてでございます。

幸久橋は橋脚のひび割れが発見され、10月17日から通行どめにして調査したところ、橋の安全性を確認するための詳細調査が必要となったため、平成26年2月ごろまで全面通行どめとなっております。このことにより、幸久橋を通過していた車両が幸久大橋に集中したため、幸久大橋の国道349号バイパスに交通渋滞が発生いたしました。そこで国道349号バイパスの上り線、下り線、県道和田上河合線、那珂市額田方面からの車両の交通渋滞対策としまして、県及び市から交通管理者の県警本部に信号時間の調整を依頼しました。その後、幸久大橋に関連する3カ所の交差点の信号調整がされまして、交通渋滞につきましては、通行どめ当初と比べますと渋滞が緩和されております。

市の意向方針でございますが、先ほど述べましたように、安全性の確認がされた結果により、幸久地区周辺の道路ネットワークの再考につきましては、地元常陸太田市の意向も十分に反映され、整備計画を定め、対策工事の早期着手をあわせて国・県に要望してまいりたいと考えております。

次に、里川八幡橋新設と周辺道路の整備について、橋梁新設と周辺道路整備の考えについてでございます。

八幡橋は谷河原町と落合町をつなぐ里川にかかる橋梁であり、朝夕は日立市方面、那珂市方面へと向かう通勤道路となっております。また幸久地区、西小沢地区住民の生活道路として利用されている道路でございます。現在の八幡橋は、延長33.8メートル、幅員2.7メートルの木橋で、平成16年の災害により流失し、かけかえをしてから約10年が経過しております。

八幡橋の新設と前後の道路改良工事につきましては、国道349号バイパスから八幡橋を挟んで県道常陸太田下土木内線までの約2,200メートルの区間の整備が必要となるため、木橋を堅

固な構造の橋にかけかえるには、事業期間、事業費ともかなりかかることが予想されます。

市としましては、現在事業中の主要幹線、南部幹線道路の早期完成を最優先に進める必要があることと、その他市内全体で整備中の幹線道路10路線の早期完成に努めておるところでございます。また、来年度から始まる橋の長寿命化対策工事も今後数年間続くことから、新規整備路線の採択につきましては、この路線を含め財政状況も考慮して優先順位をつけ、計画的な事業実施ができるよう検討してまいりたいと考えております。

しばらくは市民の皆様へ里川の増水による通行どめなどでご不便をおかけしますが、現在の木橋の補修や見通しを確保するための周辺の除草等を行いますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

○川又照雄副議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 次に、通学路の安全確保についてお答えいたします。

幸久橋の通行どめに伴い、幸久小学校及び峰山中学校の通学路を通る車両が大幅に増加しておりますが、道路事情の早急な改善が難しいことから、幸久橋の通行が再開するまでの当面の対策といたしまして、幸久小学校及び峰山中学校の通学路の一部を変更して安全の確保を図っております。

具体的に申し上げますと、幸久小学校におきましては、下河合町から通学する児童が車両の混雑に遭わないように、幸久大橋たもとの国道349号バイパス下河合南交差点から100メートルほど手前のところで幸久大橋の下を通る道に入り、その後、通勤車両が入り込んでこない安全な道を通って上河合交差点に出よう通学路を一部変更しております。

また、峰山中学校では、藤田町、島町、栗原町、上河合町、下河合町から通学する16名の生徒が、変更前の幸久小学校と同じく、国道349号の上河合北交差点と国道349号バイパスの下河合南交差点を結ぶ市道を通って通学しておりましたが、11月1日から登下校とも国道349号を磯部町交差点まで直進するルートに変更しております。

また、通学路の変更とあわせて、PTAや子ども安全ボランティアの方々の協力を得て立哨箇所を増やすなどして、一層の安全確保を図っているところでございます。特に島町におきましては木島大橋を利用する車両が増えていることから、子ども安全ボランティアの皆さんにこれまで以上のご協力をお願いして安全確保に努めております。

今後とも立哨指導等の協力の強化を図るとともに、児童生徒が常に危機意識を持ち、道路や周囲の状況を的確に判断しながら危険を回避して安全に生活していくことが大切でございますので、交通安全指導の充実に一層努めてまいります。

次に、久慈川サイクリングコースの放置ごみ対策についてのご質問にお答えいたします。

久慈川サイクリングコースは、常陸太田市、日立市、東海村で構成する久慈川サイクリング管理運営協議会が国土交通省より占用許可を受けて維持管理を行っております。コースのごみ対策といたしましては、台風等により増水があったときには、随時サイクリングコースを巡回し、漂流による残留物がコース上に堆積した場合には、国土交通省常陸河川国道事務所と連絡を調整の

上、通行どめや残留物の撤去など維持管理を行うことになっております。

議員ご指摘のように、この秋の増水により、落合から幸久大橋下までの間3カ所に残留物がありましたので、現在通行どめの措置をしております、今週中にはごみの撤去をする予定でございます。

今後は、適切な維持管理に努め、サイクリングを行う方々に不便をかけないように努めてまいります。また、今後の気象状況により大雨等による久慈川等の増水が数多くみられる場合には、漂流した残留物の撤去費用も含めて適切な維持管理について管理運営協議会で協議を行ってまいります。

○川又照雄副議長 赤堀議員。

〔3番 赤堀平二郎議員 質問者席へ〕

○3番（赤堀平二郎議員） ただいまご答弁ありがとうございました。

高齢化対策のひとり暮らし高齢者の見守り体制の現状につきましては、答弁の中で多くの民間業者の方と提携をなさって、安否確認を含めた見守り体制を実施しているとのことですので、今後ともよろしくお願ひしたいと思うわけでございます。

次に、買い物難民対策でございますけれども、特に移動スーパー等は、金砂郷・水府・里美地区で既に民間の業者がやっているということでございます。最近ではネット等で買い物をする若い方が増えておりますけれども、やはり高齢者の方、特にひとり暮らしの方は、地域の人たちとコミュニケーションをとりながら対面サービスで物を買うということが、その地域のお年寄りの1つの生きがいにも通じているような感じを受けます。

商工会の方に話を聞きますと、その地域でとても採算に合わないからお店を閉めてしまおうという方もおるみたいでございましてけれども、その方に対し商工会としては、その地域のお店がその地域のコミュニケーションの場として生活の拠点の1つとしてあるんだから、とんとんでも何とか店を閉めないでほしいとお願ひしているという現状もあるそうでございます。そういう地域に関しましては、行政としてもどういう方法がとれるか知恵を絞っていただいて、地域の皆さんの日常の生活が少しでもうるおいのある豊かなものであるようにお願ひしたいと思うわけでございます。

3番目の高齢者対策の問題でございますけれども、オンデマンドタクシーは年々利用者が増えているということで、市民バスのほうは減っているということでございますが、オンデマンドとの関係におきまして、そういうものが出てきているのかなということも考えられますけれども、市民バスの利用者が年々減っていることに関しましてどのようにお考えになっているかお聞かせいただければと思います。

○川又照雄副議長 答弁を求めます。総務部長兼政策企画部長。

○佐藤啓総務部長兼政策企画部長 今、議員のご指摘にありましたように、市民バスの乗客が減っているということについては、その原因として、1つには全体としての人口減少の問題があるということ、それから、やはり高齢者の方にとってはバス停まで出ていく難しさがあるという中で、実際に家のすぐそばまで来ていただけるオンデマンドのデマンド型の交通のほうに移行して

いると、その2つが大きいのかなと思っているところです。

○川又照雄副議長 赤堀議員。

○3番（赤堀平二郎議員） ありがとうございます。

それと乗り合いタクシーなんですが、里美地区には以前から商工会が中心となってそういうサービスを行っている、また、NPOの方が里美地区で行っているということでございますけれども、この乗り合いタクシー、里美地区においては今後どのように考えているのか、それだけちょっとお聞きしたいと思います。

○川又照雄副議長 答弁を求めます。総務部長兼政策企画部長。

○佐藤啓総務部長兼政策企画部長 今、議員からご指摘いただきましたように、デマンド型の乗り合いタクシーについては、そもそも里美地区においては市の商工会とNPO法人の2社がそれぞれの方法によって認可を得て運行していて、それに続く形で市が常陸太田地区、金砂郷地区、水府地区の3地区においてタクシー事業者に委託する方法で運行してきたという経緯がございます。

このような経緯がありますので、これまでのところ里美地区の2社については、市に先行してそれぞれの法人として独自の運営を行ってきておりますので、今のところ支援は行っていません。ですので、現在のところ里美地区に市のほうで乗り合いタクシーを導入するというのももちろんしていないという状況にあります。

一方で課題として、里美地区で運行されている2社の事業と常陸太田、金砂郷、水府の3地区で運行されている乗り合いタクシーでは、提供される輸送サービスですとか、利用者の負担に差異があるということで、地域によらず地区、市内全域で共通した平等な輸送サービスが提供できるようにしていく必要が長期的にはあるのではないかと考えています。ですので、地域間及び事業間の調整を図っていく必要があるものと認識しております。

里美地区の2社の運行状況や運営状況、また、里美地区の皆様の利用状況などを踏まえて、どのような方向で解決を図るのがいいのか検討させていただきたいと思います。

以上です。

○川又照雄副議長 赤堀議員。

○3番（赤堀平二郎議員） 答弁ありがとうございます。里美地区において先行した業者がございませけれども、当局としてもその辺を踏まえた上で、何とか里美地区にも充実したデマンド型の交通システムをつくっていただきたいと思います。

続きまして、橋脚の問題でございますけれども、これは2月半ばに検査結果が出るということでございますので、市の意向につきましては、3月に意向をお聞きしたいと思います。

八幡橋近辺の道路の整備につきましては、優先順位、また当然財政的な問題がございませしょうから、その辺を踏まえた上でできるだけ進めていただけるようお願いしたいと思っております。

通学路の安全確保は、PTAの皆さん、地域の皆さん、そして教育委員会の皆さんが連絡を密にとりまして、事故等の発生が起きないように引き続き頑張っていただきたいと思っております。

久慈川のサイクリングコースのごみの問題は、早急に取り組んでいただけるということで安心

いたしました。ぜひ今後ともいろいろ予算等の問題、他市との連携の問題、国との連携の問題等
ごさいしょうけれども、ひとつ迅速な対応ができるようによろしくお願い申し上げます。

安全・安心まちづくりにつきましては、よく内容を理解いたしました。とにかく市民の皆さんの
安全・安心を守るという中で、適切な対応をお願いしたいと思います。

防災無線の新設については、私としてはできるだけ空白地帯のないようにやっていただきたい
と思いますのでよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして私の2回目の質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○川又照雄副議長 産業部長。

○樫村浩治産業部長 先ほどの藤田議員さんからのご質問の中で答弁させていただきました内容
の一部を訂正させていただきます。

空き家の状況でございますが、これまで私どもが収集してまいりました情報に加えまして、町
会及び市民の皆様からお寄せいただきましたケースなどを合わせますと約200件の情報でござ
います。その中で、先ほど答弁させていただきましたように、さまざまな理由から貸し出し不能
となる例も多くありまして、現在の貸し出し可能な空き家の件数は2件となっております。

よろしくお願い申し上げます。以上でございます。